

## 「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」 実施報告について

### 1 事業目的

平成30年7月豪雨により被災した地域の子育て家庭が、家屋の片付けや被災に伴う各種手続を安心して行うことができる環境を整えるとともに、避難生活が長引き子どもたちがストレスや健康上の問題を抱えないように、子どもが安全に、安心して過ごすことのできる居場所を臨時的に設置した。

### 2 事業概要

- (1) 実施主体 岡山県
- (2) 協力団体等 公立大学法人岡山県立大学  
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
おかやま在宅保健師等の会「ももの会」  
県内外からのボランティア 他
- (3) 実施場所 岡山県立大学 学部共通棟（西）内「チュッピーひろば」  
※倉敷市真備地域の避難所（3箇所）との間で送迎バスを運行
- (4) 実施期間 平成30年7月18日（水）～8月31日（金）（35日間）  
（7月中は毎日、8月は月曜日～土曜日の9:30～16:00）
- (5) 対象地域 倉敷市、総社市等県内の被災地域
- (6) 対象児童 0歳～小学校低学年（0歳児は大人の同伴者が必要）  
※被災地域外から実家等の片付けに来ている子育て家庭も対象  
※特に理由等がある場合は高学年も対象

### 3 利用実績等

- ・利用者数 延べ787名（一日平均22名）
- |          |      |
|----------|------|
| （内訳）幼 児  | 296名 |
| 小学生      | 489名 |
| 同伴者（保護者） | 2名   |

- ・従事ボランティア数 延べ397名（一日平均11名）

## 居場所利用者・ボランティア参加者からの感想、意見

### ○利用児童の保護者からの感想等

- ・片付けや家事に追われてゆとりがなく、親子関係もギクシャクしがちだったが、この事業でかなり改善された。
- ・メニューも配慮された昼食が支給されたこと、長時間預かる場所だったことから、片付けに安心して専念できた。
- ・小学生と未就学児を一緒に預けることができたので利用しやすかった。
- ・避難所からの送迎バスがあって利用しやすかった。
- ・思いっきり外で遊べたり、お兄さんに勉強をみてもらったなど、いつも笑顔で帰ってきて話を聞かせてくれた。
- ・外遊びやアクセサリー作りなど、子どもの好きな活動に取り組むことができ、子どもにとって大好きな場所だった。

### ○ボランティアからの感想等

- ・被災直後からの迅速な取り組みをしかも県が行ったことを評価する。
- ・いつどこで必要となるかわからない事業なので、今回の取り組みや成果を他の自治体等とも共有してもらいたい。
- ・一般的な災害ボランティアは体力面等で自信がなかったが、手伝いの場をつくってもらえ、ありがたかった。
- ・県・NPO・ボランティアが協働し、役割分担がうまくできていた。
- ・大学の中が広くて集合場所が分かりにくかった。
- ・ボランティアへの依頼が直前だったので予定が立てにくかった。
- ・再び岡山を支援するために、今度は観光で訪問したい。(県外ボランティア)

